

【昭和村】
校務 DX 計画

① 校務 DX の現状と課題

本村では、近隣 3 町村と利根郡学校関係 ICT 推進協議会を設置し、共同調達により校務支援システムの早期導入を行い、教員の働き方改革を推進してきた。また、令和 5 年度にはデータ添付可能な保護者連絡アプリを導入し、教員と保護者間の連絡（保護者から出欠連絡、学校からの配付文書等）をデジタル化している。このように、各種デジタル化を進めたが、学校現場においては、依然として紙ベースの資料が多くみられるため、ペーパーレス化を進めていく等を含め、業務の円滑化・効率化を図れる点については改善する余地があると考えている。

文部科学省「GIGA スクール構想の下での校務の情報化の在り方に関する専門家会議提言」に基づく次世代の校務デジタル化に向け、文部科学省が公表した「GIGA スクール構想の下での校務 DX 化チェックリスト」に示されている、教育委員会及び学校が教育 DX を推進する際に取り組むことが望ましい項目を実現するため、本村において、次に掲げる事項を重点的に推進する。

②校務 DX の課題解決、次世代の校務デジタル化

1. FAX・押印の原則廃止

令和 5 年 12 月に文部科学省が公表した「GIGA スクール構想の下での校務 DX 化チェックリスト」に基づく自己点検結果の報告によると、ほとんどの学校でまだ保護者・外部とのやりとりで押印・署名が必要な書類があり、クラウド環境を活用した校務 DX を大きく阻害していることが指摘されていることから、災害や教育ネットワークの不具合時など FAX の方が電子メール等より効率的な場合を除き、FAX・押印の原則廃止に向けて、各種関係機関及び学校と関わりのある事業者に対して、教育委員会から慣行の見直しを依頼するなど、継続的に働きかけを行う。

2. 校務支援システムのクラウド化

現在、校務支援システムはオンプレミス型で運用しており、教務・保健・学籍・成績管理など幅広い業務で利用している。保護者連絡アプリなど汎用クラウドツールと連携し、教職員の負担軽減やコミュニケーションの迅速化・活発化ができる環境を構築するため、校務支援システムのクラウド化について、全国の先進自治体の動向を調査する。そして、校務支援システムの次期更新時（令和 8 年 4 月）のクラウド化を目指し、名簿情報の不必要な手入力作業を実施することがないよう、近隣市町村および学校現場の教員と情報共有しながら、教員の多忙化解消を実現するための仕様の作成及びシステム設計、調達業務等を進めていく。

3. 校務系・学習系ネットワークの統合

児童生徒の個人情報等を取り扱う「校務系」、児童生徒が教育活動で利用する「学習系」を分離し、インターネット経由等から児童生徒の個人情報等にアクセスできない構成となっているが、教職員の働きやすさの向上と教育活動の高度化実現を目指し、ゼロトラストの考え方に基づくアクセス制御によるセキュリティ対策を十分に講じた上で、学校・村情報管理担当・関係業者と連携を図りながら、ロケーションフリーで校務系・学習系ネットワークへ接続可能な環境の整備に向けた調査研究を進めていく。